

平成26年度

決算報告

平成26年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算が市議会にて認定されました。羽島市の決算状況についてお知らせします。

■問い合わせ先 総務課（内線2355）

平成26年度 会計別歳入歳出決算

会計別	歳入(収入済額)	歳出(支出済額)		
一般会計	215億4,240万円	202億3,846万円		
特別会計	国民健康保険	80億8,982万円	75億1,786万円	
	介護保険	41億8,646万円	41億6,951万円	
	簡易水道事業	410万円	291万円	
	下水道事業	22億5,267万円	21億9,411万円	
	羽島市・羽島郡二町介護認定審査会事業	2,539万円	2,539万円	
	インター北土地区画整理事業	8,567万円	7,695万円	
	駅北本郷土地区画整理事業	1億8,223万円	1億2,147万円	
企業会計	後期高齢者医療	5億7,413万円	5億6,188万円	
	病院事業	収益的収支	60億1,907万円	76億3,648万円
		資本的収支	1億645万円	5億1,165万円
	上水道事業	収益的収支	7億7,516万円	5億8,088万円
資本的収支		8,983万円	4億3,088万円	

一般会計

歳入

歳入全体の決算額は215億4,240万円、前年度と比べて4億1,754万円、約2%上昇しました。

歳入には、地方公共団体が自主的に収入することができ、市税や手数料などの自主財源と、国や県から交付される依存財源があります。自主財源が多いため、行政活動の自主性と安定性を確保できます。26年度の歳入決算額に占める自主財源の割合は、前年度と同じ53.6%となりました。内訳を見ると、依存財源である国庫支出金が減少したものの、自主財源である市税や市債の増加により、自主財源比率は前年と同程度となりました。

歳出

歳出の決算額は202億3,846万円、前年度と比べて2億1,671万円、1.1%の増加となりました。歳出を目的別にみると、保健医療や福祉等の民生費が最も比率が高く36.5%を占め、前年度と比べて5億2,283万円増加しています。次に総務費が14.6%、土木費が11.7%を占めています。借金の返済額である公債費は、6年連続で減少しており、前年度と比べて1億1,072万円減少しています。

市民一人当たりの負担状況

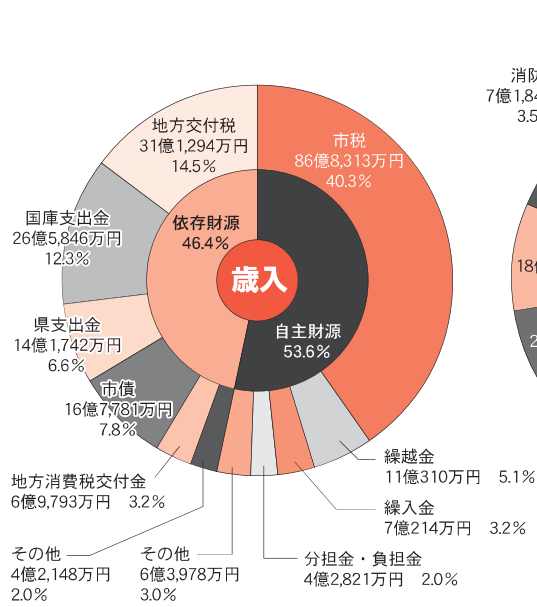
市民一人当たりの市税の負担は、12万6,598円で、前年度と比べて17,355円の負担増となっています。過去5年間の推移は、図「市民一人当たりの市税負担額の推移」のとおりです。

市債の現在高状況

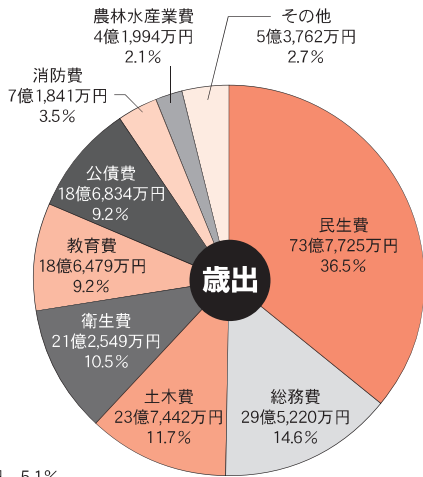
26年度普通会計決算での市債現在高(借金の残高)は、約168億円となりました。今後も借入残高が過度に増大しないよう計画的に活用し、健全な財政運営に努めます。

平成26年度 羽島市一般会計決算

歳入 215億4,240万円



歳出 202億3,846万円



特別会計

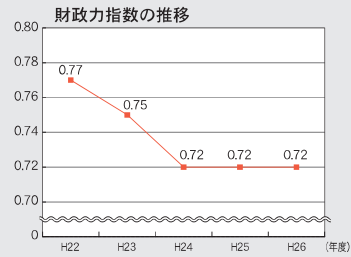
特別会計のうち、介護保険は、前年度と比べて歳出が介護費負担の増などから3億3,465万円(8.7%)増加。駅北本郷土地区画整理事業は前年度より3億9,222万円(71.8%)減少しました。

企業会計

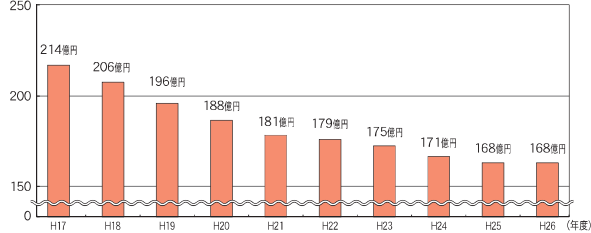
企業会計は、公共の福祉の増進を目的として独立採算で運営されている事業の会計で、羽島市は病院事業と上水道事業の二つがあります。

財政力指数

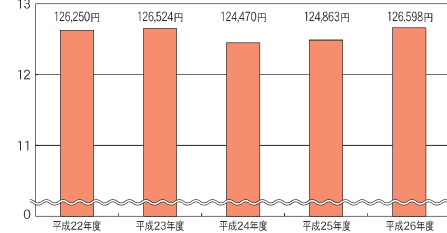
財政力指数とは、地方公共団体の財政力を示す指数です。標準的に徴収が見込まれる税収入額を、行政サービス・施設維持等を行うための需要額で割って得た数値の過去3年間の平均で算定します。この指数が高いほど、財源に余裕があるといえます。財政力指数の過去5年間の推移は下図のとおりです。



市債現在高の推移



市民一人当たりの市税負担額の推移



一般会計推移

